

---

# 指名手配犯の一日

相樫りわ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

指名手配犯の一日

### 【著者名】

相樺りわ

20593F

### 【あらすじ】

時は中世。空を飛べる特異体質少女メニーは魔女裁判にかけられるので月1くらいのめやすで国の人々から逃げてあります。そんなある日友達のルーから市民プールに行こうと誘われまして・・・のんびり少女メニーの一日。

(前書き)

ぐーたら小説で「じゅこ」ます。ハチヤメチヤなのでよかつたら読んでみてくださいませ。

突然ですが、わたしは空が飛べます。

箒とかは使いません。ぎゅって地面を蹴つて手でギュンって空気を押すと、空が飛べるんです。

平泳ぎに似てます。ぎゅつ、ぎゅつ、ぎゅつて空気を押せば押すほど空高くまでいけるのです。

でもわたしは、この闇のかりと丘陵さんに飛ぶ姿を見られてしましました。

すごーく空高くまで上がる際に見られていたようです。

そんな訳で今、わたしはとっても大変なことになってしまっているのです。

(時は中世)

見つかれば、魔女裁判にかけられる。そうすれば100分の99.99999以上の確率で釜茹でとか、火あぶりとか、打ち首の刑にかせられる。そんなの、絶対に嫌です。まだ16歳なのに、そんなことで死にたくありません。

そもそもわたしは生まれつき空が飛べていたのです。そのほかに特別凄いことができるかって言つてできません。ただ空を自由に飛べるだけなのですよ~♪

中世に空が飛べても平成に空が飛べても、いいことはありませんよ？中世ならさつきも言つたよつてほら、見つかつた途端に殺されちゃいますから。

平成では別に空気だつて特別澄んでいるわけでもないし、まあ見つかればメディアのなかで大変なことになりますしね。ですからわたしは、願わくば普通に生まれてきたかったものですよ？

けれどどうなつたからには仕方がないのです。逃げましよう。

まあいろいろとそんなわけでありますし、今わたしは國中の人々に首を1000万円ほどの値打ちで賭けられています。皆さん血眼でわたしを捜さないでくださいませ。怖いです。

わたしには仲間がおりまして、この人たちは唯一わたしを血眼で捜しません。ルーとメリとコイ様です。ちなみにわたしはメーーといいます。

最近ルーがですね、わたしとメリとコイを市民プールに誘つてくださいまして。

慎重さんなメリは反対いたしましたのですがコイとわたしが行きたがり結局行つたのですね。

「わー、ひるーー」

「いいねーなつつてー」

「あついですよー」

「やつぱやばいってー」

えつと今、プールの受付におつまとして、受付のお姉さまもすきあらば辺りを見回します、血眼で・・・怖い。わたし、狙われますね。

「うつけのおねえさんになげんれーだーみたーい」

「しつ、るー！かんづかれるよー。」

メリさんは慎重です。こんなことで感づかれる」となじませるとあります。

まあ、悠々とプール内には入れたのですがねー。

ユイは「すりるすらいだーにのりたー」とおっしゃいまして。でもですね、わたしは正直乗り気じやなかつたのですよー。何故かつて？だって、このスライダー、0から200までの番号がある紙をくじ式に引きまして、0を当てた人は無差別に容赦なく殺されるんです。

どこかの国の王様がこの国に来たときに偶然ここに立ち寄りまして、偶然〇を引いて殺されたことがあるそうです。この制度はもう3世紀ほど前からあります有名ですよ。

生きる願望の強いわたしはそんなものに乗りたくないわけです！  
！－！生きましょー。

でもでもユイはどうしてもスリルスライダーに乗りたいと言い張り結局わたしだけはただの丸いプールにいて他の3人はやってきて、無事生還いたしました。ユイは1番でメリは43番でルーは95番だつたそうですよー。ユイさん、危ないです！

「おもしろかったよー。のねばよかつたのにー」

「えんりょします。こんなことでしにたくありません

」」」寧に遠慮いたしましたとわ。

「ねえやつぱこつしょこのひ」

「いやですつて」

またもやわたしは死の危険にさらわれておつます。ですから死にたくないんですつたら！

けれどわたしは、コイに引き摺られるよつこして乗りました。あああ・・・

運命のくじ引き。血眼のお兄さんが持つ箱の中から祈りを込めて一枚引き出します。

さて、その番号は？

ふるふる震えながら四つ折の紙を開きます。

『〇』

「つぎや  
……」

悲鳴を上げて後ずさります。イヤイヤイヤ、殺さないでください

つ……

白いズボンに青いパークー姿のキャップをかぶつたお兄さんが一步わたしが後ずさると一歩こしからに動きます。このままじや殺される

！－！

た、たすけて……やつ思つて三人の方をチラと見ます。三人は横を向いて口笛吹いてます。

「つ、つらきりもの  
つ、つ……」

もつ、どうにでもなつてください……あたしはつこに回れ右して走りだしました。

だだだだだつ。後ろからはあの恐怖のお兄さんが4人ほど追いかけ

てきます。うふふ、とっても足が速いですね。小学校じゃいつもリレーの選手だつたでしょ？ああ、もうあまり差がない・・・

仕方があつません。もう逃げ道はないよつです。につなつたら本性をあらわしましょ。

わたしは地面をぎゅっと蹴り、ばたばた手をはためかせます。ああ、あの人たちがもう蟻のよつです。多分私が飛んだことであの人たちは大騒ぎに、大乱闘になつてゐることでしょ。今のうちに逃げなければ。

わたしはわたしなりに急いで、いつもの2倍ほどのスピードで飛びました。分速20メートルくらい。え？遅い？でしょ？なに、いいのです。どうせこんな高くには大砲だつて届きませんから。目指すは海の向こつです。どこだか知りませんがニッポンという小さな島国があると聞きます。そこのココウキュウとやらこすみましょ。何しり暖かいそつですからね。

時は、中世。わたしはこんな感じに月1~2くらいのめやすで魔女裁判から逃げております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0593f/>

---

指名手配犯の一日

2010年12月25日16時48分発行